平成 27 年度　モンゴル国家統計局との協力事業の報告

当財団は、モンゴル国家統計局（以下、MNSO）との間で、政府統計の分野に関して交流･協力を行うため、2005 年 9 月に 3 か年の協力協定を締結しました（協定締結の経緯と詳細については、本誌 2005 年 12 月号特集「モンゴル国家統計局支援」参照。PDF 版を当財団ホームページ内「国際協力」ページに掲載しています）。その後、2009 年、2012 年に延長協定を締結し、協力事業を継続・実施しています。

MNSO 統計視察団の来日、国内研修等

2015 年 12 月 14 日～ 21 日の 1 週間、モンゴルより MNSO 統計視察団として、ドルノド県統計課長ダリスーレン・エンフバータル氏とウランバートル市ソンギノ・ハイルハン地区統計課長バンズラグチ･アルタンゲレル氏を招聘し、国内研修を行いました。

エンフバータル氏の住むドルノド県は、ウランバートルから東に約 600km の平原地域に位置し、北はロシア、東と南は中国と国境を接する人口 7 万人、面積 12 万 km^2 の県です（参考：モンゴルの人口は 294 万人、ウランバートルは 131 万人）。県東部には 1939 年ノモンハン事件の舞台となったハルハ河が流れています。

視察団は、当財団において統計 GIS などについての研修を受け、特に、小地域統計を用いて日本における人口減少の状況を表した統計地図に興味を示し、小地域統計の活用法や GIS ソフトは何を使っているのかなど、実践的な内容の質疑応答が行われ、モンゴルでも GIS の整備・活用が進んできていることがうかがえました。

視察団は、このほか、総務省統計局、総務省政策統括官（統計基準担当）、㈱統計センター、統計資料館、総務省統計研修所、明治大学の各所を訪問し、視察及び意見交換を行いました。また、統計数理研究所で行われていた政府統計ミクロデータ・ラボラトリー国際ワークショップ（当財団の伊藤理事長がオーガナイザーの 1 人で、モンゴルを含むアジア 10 か国の家計調査のマイクロデータの整備と有効活用を研究）を見学しました。

↑政府統計ミクロデータ・ラボラトリー国際ワークショップにて、右から伊藤理事長、エンフバータル氏、アルタンゲレル氏、通訳
GIS 研修の様子→

休日や空き時間には、職員がスカイツリー、浅草、鎌倉などを案内しました。お二人とも日本が初めてだとのことで、日本の美しさに感激しておられ、また、高層ビルなどの都会の風景は想像以上に素晴らしいとおっしゃっていました。

帰国直前には財団役職員でアットホームな送別会を行い、日本、モンゴル両国の歌をお互い贈り合い、友好を一層深めました。

本事業においては、日本の関係諸機関に多大なご協力を賜りましたことを、ここに深く感謝申し上げます。